

スキマタイムズ

もっとお互いを理解するための場や時間を

日本自立生活センター自立支援事業所 2017年3月29日発行 第72号

お花見に 行こう！ 2017春

桜の季節、ウキウキのんびりお花見にでかけましょう♪

日時：4月5日(水) 11:00-14:30

場所：梅小路公園 芝生広場野外ステージ前集合

**昼食：お弁当(800円)を注文される方は
4月2日(日)までにお申し込みください。**

担当：橋口

連絡先：075-682-7950

当日の連絡はこちら→ 090-8539-9436

※小雨決行です。



こころとからだをすっきり！ヨガタイム

ヨガで自分の身体と向き合ってみませんか？ヨガの目的はきれいなポーズをとることではありません。その日の身体がどんなふうに動くか動かないか、意識を自分に向ける時間です。呼吸が深くなり、肩こり、腰痛、疲労感もやわらぎます。もちろん腰痛予防にもいいですよ！ぜひ参加してみてください♪ 講師は石田久美さんです。

★ヨガ：全身をうごかすヨガ

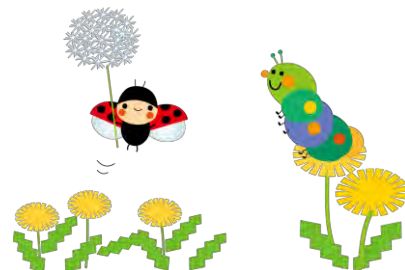
日時：4月17日(月)

17:00-18:15 (OPEN16:45)

場所：油小路事務所2F

持ち物：動きやすい服装・タオル・飲み物

参加費：無料



*このヨガクラスは、JCIL自立支援事業所の利用者と家族・介助者を対象にしています。

日本自立生活センター自立支援事業所 編集担当：岡山・橋口

TEL: 075-682-7950 E-mail: jcil-kyoto@jcil.jp URL: <http://www.jcil.jp/zigyosho/index.html>



まるめて!

ついて!

楽しかった! おいしかった! おもちつき
春よ、こい祭 2017.2.25



あたたまって!



3月18日に第31回「国際障害者年」連続シンポジウム「相模原障害者殺傷事件 どう受け止め どう考えるか」が無事に開催されました。

津久井やまゆり園の元職員の方をはじめ様々な方々が、この事件を振り返り、犠牲者を悼みました。

詳しい報告は次号の「スキマタイムズ」に掲載される予定です。
(画像は2017年3月20日付の朝日新聞に掲載された記事です)

相模原殺傷事件 障害者や元職員 考えるシンポ。

相模原市の障害者施設「津久井やまゆり園」で入所者ら46人が殺傷された事件について考えるシンポジウム「相模原障害者殺傷事件」が18日、南区の京都テルサで開かれた。脳性まひなどの障害がある人や家族ら約150人が参加し、同園の元職員や、障害者施設の運営者らの話に耳を傾けた。

元職員で専修大講師の西角純志さん(51)は「被害者たちは警察の発表で匿名にされ、社会からも忘れ去られようとしている。彼らの生きた証を残したい」と話す。現役職員などへの聞き取りを重ね、被害者たちの人柄や園での生活の様子などをまとめている。

西角さんは2001〜05年に同園で働き、亡くなった19人のうち7人の男性の介助などを担当していた。「演歌が好きだった」「興奮すると跳びはねる人だった」などと思いを語り、「事件を風化させないためにも、当事者を知っている者として伝えていきたい」と話した。

シンポジウム実行委員の一人で、脳性まひの障害がある金原喜さん(55)は「事件後、車いすで外に出たら危害を加えられるんじゃないかと、いろんな思いがあった。私たちは生きていくんだと、存在を認めてほしい」と話した。

「生きた証を残したい」と話す西角純志さん(南区)

総合支援法に変わったよ！ で、それで？Part60

自立生活満喫中のリツコさん
でもあんまり難しい話は苦手…



寒さもだいぶマシになったね。

お花見が待ち遠しいなあ。

そうそう、この前、相模原事件のシンポジウム、とても充実した内容やったね。

とりあえず、最初の西角さんのお話かなあ。
亡くなられた方がどんな方々やったのか、はじめて聞いたような気がする。

なんか、みんなのエピソード聞いて、それから黙とうの時間があって、そして献花の時間があって、、、献花台を見てたらちょっと涙が出てきたな。
確かに生きていた人たちが亡くならはったんやなど実感できた。

うんうん。いいとこだけでなく、悪いとことか、仕草とかも教えてくれてはったね。
天使のような人もいはって言うてたね。

そうやったね。どんな経緯で施設に入ってしまったんやろう。
いろんな方のことが紹介されてたね。

そうそう。
ピープルファースト横浜の取り組み、熊谷さん、尾上さんのお話、どれもみんなすごかった。
またふりかえってみたいな。

障害者制度改革について
勉強中のタクオさん
小難しいこともやさしく(?)解説



うん。もう春やねー

うん。いろんなことが知れたし、いろいろ勉強になったね。
なにが印象に残ってる？

そうだったね。あんな詳しくは、たぶんこれまでどこでも話されてなかったと思う。

そうだよ。亡くなられた方のこともたんと語ってくれた。たとえば、49歳の男性の方、「囲碁や将棋が大好きで、毎週日曜日になると部屋で正座をし、肩間にしわを寄せてNHKの番組を観ていました。職員と囲碁をし、評論家のようにコメントをすることもありました。その一方で大きな声を出すのが特徴で、「ドアが閉まります。ご注意ください」といってサンダルを履いて廊下を往復し、まるで殿様のような様子でした。
テレビやお店の看板を壊して弁償させられることもありました。時折、利用者や職員に対して粗暴。暴力行為もみられ、職員に注意されることもありました。」

55歳の女性のことだね。

「リボンが好きで茶菓子などを開けたりする「カサカサ」という音がすると喜ぶ。「わーわー」言いながら「ポタポタ」と歩いていた。人に迷惑をかける人ではなかった。紐のようなものが好きで、持ち歩いていた。ポシエットをしていた。
生き仏のような人、いつもニコニコしていた。純粋そのまま。生きている人に幸せを与える人。障害があればあるほど愛しい。
天使のまま天使になった。と

そうだね。そうした方々が、施設に入り匿名のまま亡くなることなく、地域で支援やいい人間関係にめぐまれながら生き続ける社会をめざしたい。そのことを考えるための課題や取り組みも、その後の方々からいろいろ発言きけたね。

第6回 東九条春まつり

出会って、食べて、多文化体験！

◆ステージ ◆出店 ◆体験コーナー ◆展示 ◆東九条トークショー 他
いろいろなちがいを知って、気づいて、出会えるような、そんなまちをめざそうと、ネットワークサロンに登録する55団体がアイデアを持ち寄った、手作りのおまつりをお届けします。

■日時：4月22日（土）10：00～15：00

■場所：京都市地域・多文化交流ネットワークサロン（京都市南区東九条東岩本町31）
京都駅八条口、地下鉄九条より徒歩15分、市バス「九条河原町」より徒歩10分

■主催：京都市地域・多文化交流ネットワークサロン

■お問い合わせ先：京都市地域・多文化交流ネットワークセンター内

TEL：075-671-0108 FAX：075-691-7471

http://kyotonetworksalon.jp/new/pdf/2017harumaturi_a472dpi.pdf



このたび、スキマタイムズの編集・発行を6年間担当してきました横川が退職することになりました。2011年4月の創刊より欠かさず毎月発行できたのは、読者のみなさんのお支えのおかげです。本当にありがとうございました。

スキマタイムズは、J C I Lの活動と事業所の利用者さん・介助者さんをつなげるものがあればいいな、と考えて始めた通信でした。お互いのことがもっと見えるように、風通しがよくなればいいなと思ったからです。

もともとJ C I Lではいろいろな勉強会をしていたけれど、スキマタイムズで案内することによって、参加者の顔ぶれにも広がりが出てきました。制度などの勉強だけでなく、いま気になっていること、勉強したいことを提案したり、紹介したりする場にもなっています。スキマ☆ナイトや餅つきなどイベントも活発にできるようになりました。J C I Lの周りにはいろいろな人（自由人？）がいて、それぞれの活動を共有したり新しい出会いがあったり、そんなつながりのきっかけに、スキマタイムズや企画があればいいなと思います。

第71号から、編集は岡山さんと橋口さんが担当してくださっています。また新しい流れができるのではないかと期待しています。J C I Lのこれからの活動にも注目していきたいです。またどこかでお会いできるのを楽しみにしています♪

これまで本当にありがとうございました。またこれからもスキマタイムズをよろしく願います☆

横川ひかり